

# Home X

with

# James Powderly



## 趣旨

本学の社会連携センターが組織する、新しいタイプのワークショップ。現代都市文化への新しいアプローチを続ける世界的アーティスト、ジェームズ・パウダリーが本学学生と5日間にわたって制作を行い、社会にメッセージを発信する方法を探っていきます。

HomeXとは「私の生活する場所」で「身の周りにあるもの」を使い、「もの」を作ること、つまり日常生活で行われている「家事」に、新しい視点と発想を導入することで、「私」と「社会」との新しい通路を創り出そうというものです。

HomeXは「家政学のアート」です。このアートはまた、現代における表現、生活、自身と他者について考えるきっかけとなるはずです。

5日間のワークショップでは、次の3つのテーマが予定されています。(変更の可能性あり)

- 1 ホーム・クッキング
- 2 ホームメイド・ファッション
- 3 ホーム・サイエンス

それぞれのテーマに新しい発想を見つけ出すべく、参加者はパウダリーとの、またグループでの対話を通して、『家政学のアート』に挑戦します。

## 応募要項

### 参加資格

ワークショップの趣旨に関心がある本学学部生・大学院生  
(学問領域、アート経験不問)

### 参加人数

15名

### 期間

8月4日(水)～8月8日(日)

※時間と場所の詳細は、追ってお知らせします。

### 受付

社会連携センター

Tel: 075-702-5201

Mail: yazawa@kyoto-seika.ac.jp

James Powderly (ジェームズ・パウダリー)

ロボット工学、グラフィティ、科学を駆使したクリエイティブテクノロジー及びメディア作品を手がけるアメリカのアーティスト。NASA関連企業で火星探索ツールの技術開発チームに所属するなど、科学技術者でもある。

2006年にGraffiti Research Lab(略称GRL)を立ち上げ、新たなコミュニケーションのためのオープンソース・テクノロジーを開発し続けている。2009年には京都でもプロジェクトを実施した。

レーザーポインタで光のグラフィティを描く「L.A.S.E.R Tag」や「LED Throwies」、「EyeWriter」など、フリー・テクノロジー・DIY精神に溢れる作品は、世界のトップメディアで多数紹介されている。